

研究課題名	Open Abdomen Management における予後因子に関する研究
研究の意義・目的	全身状態が危険な状態で手術を必要とする患者様において、1 回の手術で全ての行程を行うと、患者様の体力が保てずに致命的になってしまうことがあります。そのため、最低限の止血と汚染を洗浄することだけにとどめ、一時的に腹部の傷を閉じずに集中治療室へ戻り、全身状態の改善を目指し、状態が安定してから再手術を行うという治療が存在しており、これを「Open Abdomen Management」と呼んでいます。もともとは外傷(事故や怪我)に対する緊急手術に対して行われることが多かったのですが、近年では内因性疾患(病気)に対しても行われることが増えてきています。外傷においては、命に係わる危険な状態を示すいくつかの指標が知られており、その指標を参考にして Open Abdomen Management を行うことが推奨されていますが、内因性疾患の治療において、まだその指標は明らかになっておらず、議論の余地が残っています。今回、当院で内因性疾患に対する緊急手術の結果、Open Abdomen Management を行った患者における後ろ向き研究を行うことで、内因性疾患における、命に係わる危険な状態を示す指標を特定することを目的とし、その結果、内因性疾患の患者救命率の向上に寄与すると考えます。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ~2026 年 12 月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2020 年 6 月~2025 年 6 月の間に大阪公立大学医学部附属病院救命救急センターに搬送され、術後に Open Abdomen Management による加療を行った患者様。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 ① 患者情報(診断名、年齢、性別、既往歴、検査データ、CT 画像、術後経過、合併症、転帰) ② 手術情報(手術内容、術中所見)
試料・情報を利用する者の範囲および管理について責任を有する者の研究機関の名称	この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科救急医学のみで行います。 【研究責任者】芳竹 宏幸
個人情報の取り扱い	この研究にご参加いただいた場合、あなたから提供された診療情報などのこの研究に関するデータは、すぐには個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されます。 この研究から得られた結果が、学会や医学雑誌などで公表されることはあります。このような場合にも、あなたのお名前など個人情報に関することは含まない形で公表されます。
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。

連絡先	大阪公立大学医学部附属病院 救命救急センター 担当者氏名：芳竹 宏幸 電話番号：06-6645-2600
------------	--